

六二二

受信一九四六  
譯始二三〇五

了二三五〇 電一一五二七六

作機〇

至急

東京通

佐鎮尸

作

各鎮各警尸 (除海南警尸含滿洲國)

機密第二三一五〇九番電 二分ノ二

宛 大臣總長 GB長官

佐鎮戰團機報 (六月二十三日)

一敵大連二機戰團機約三〇機南方ヨリ諷諫早佐賀附近ヲ經テ〇八〇〇  
福岡地區ニ向ヒ來襲雁ノ巢及福岡(陸軍航空基地)ヲ攻襲ノ後西進  
唐津附近ニ至リ南進大部ハ佐世保西方海面ヲ經一部ハ佐世保上空(雲上)經彼杵半島大串村附近山中ニ投彈(小型二發)ノ後他レモ南方ニ脱去ス敵來襲時天候曇リ雲量一〇雫高八〇〇ニシテ敵機ハ主トシテ雲上ヲ行動セリ

三ヶ 戰果被害ナシ

通 二二七〇六  
二二七〇七

呂一Bケ十二

九九三〇、五KC

佐二放 日野原 鹿空基地 宮寺

(岩崎)

743 742

人

六

二三

受信開始 〇〇八四〇

了 〇九三七 電 二一七二五

航作 概本〇

至

急



二三特根 戰團概報着信 監所

八

八

警

744

機 第二三一八五 四 香 電

ミリ 戰團概報 (六月二十三日)

一〇六五五 一〇七三〇 S B U 一 機「ビートン」「ケマ」東海面

旋回後同方向ニ去ル

三〇七四〇 P I 三八 二機南西ヲ通過

三〇三〇 B I 二四 一機西ヨリ侵入「トンドンダノ」南端「オナス」水

上基地附近ニ投彈 (十一) 後東ニ遁走被害ナシ

四一三二五 一〇二五〇 B I 二四 一機東ヨリ侵入「ラゴアン」ニ投彈

ノ後同方向ニ遁走被害新舊滑走路命中七發月未迄修理完成ノ見込

五「タリセ」機一六二〇 B I 二四 一機東ヲ通過ス

通一三八九三 呂一B 六一三二五七 三十一通 機 六 半

昭和廿六年六月廿五日

六二四 受信〇〇六五〇六 譯了〇七三〇 電一一六二二  
航作 本概〇  
至 急

作

横鎮戰鬪概報着信艦所

横 鎮 P

機密第一三一九〇六番電

横鎮戰鬪概報 (六月二十三日)

一、P I 五一 七五 (B I 二九 四機誘導) ハ二様圖ニ分レ列島線ニ

一符字受脱 北上一二一七及一二四一鹿島灘中部ヨリ本土ニ侵入茨

城及房總北部地區ニ來襲一三三〇頃迄ニ九十九里濱ヨリ脱去横須賀

地區ニ來襲セズ

二、(1)航空戰横鎮第三航空部隊戰鬪概報所報通

(2)地上砲火發射彈數(霞ヶ浦砲臺)十二糎七高角砲八發戰果ナシ

三、被害目下調査中

一、二九二四 呂一Bケ十二(三一〇〇C) 横通 林(森 田)

六二四

受信〇三三五  
譯始〇七四五

譯了〇九三八  
電二七五九

昭和廿年六月廿五日  
作概〇航本

至急

作

報

上海通信隊代表機関

海護總局一護衛隊隊員一〇三號隊員九〇一空・旅根  
北支方面部隊・天津・大連各在勤武官

機密第三三一九一三番電

五命一

發

青根

卜

746

(三) 特異ナル行動畫間護衛船ヲ附シテル船團ニ対シテハ執拗ニ觸接  
 スルニ攻撃手ヲ但シ夜間ハ護衛船ニ対シテ奇襲攻撃手ヲ加フルコ  
 トアリ主トシテ獨航非武装衣ノ十型船舶ヲ航爆點手ニヨリ攻撃  
 ス連雲青島間、基地航空隊(特ニ一〇〇ヨリ一四〇〇迄最モ  
 多シ)東南方面夜間ナルコト多シ。 五命一三未看ニ  
 (電信譯註 本電五命一四四五既配布  
 通一三〇六 天ニB(一三二七四六五九)上陸  
 石澤 (深見)

六二四 受信〇四〇七 譯了〇八五〇 電自一一七四四  
 譯始〇七五五 電至一一七四六 航作概本〇

至 魚

青島根

747

局長	一課長				
A	B	E	J	G	

上海通信隊代表機關

機密第二三一九  
 〇三戰隊  
 〇九〇一空  
 大連在勦武官

五分ノ一四五

支那方面艦隊參謀長

通報 上海根據地隊 中支空司令 上海運輸部長 塘沽武官  
 威海衛石島各基地隊 一〇〇參謀長

最近ニ於ケル支那海上敵機ノ動向竝ニ被害

使用機 PBM 通常二機編隊

索敵シアル行動範圍運雲ヨリ山東高角ヲ經テ大東灣ニ至ル常用

航路上(五分ノ二、三未着)

通 一三九九五 一三九六三

天二B々十二(七四六五) 上海

西園 三橋・三瓶(上野)



二十一日朝遼島派遣隊ヲ銃爆(2) B M 二機(被害輕微使用爆彈  
五〇艇三二中不發一油脂燻多彈二一中不發一

一、對策乘組所見

(イ)獨航船ニ對スル警戒兵立ニ對空火器ノ配備西岸ノ砲臺ヲ以テ  
スル直接護衛

(ロ)連綴基地ノ對空火器ヲ增強

(ハ)從來數回ニ亘リ B M 八機間低空ニテ青島灣口ニ侵入セルヲ  
以テ青島航空隊ニ雷電三機程度ヲ潛伏待機セシメ之ヲ奇襲セ  
バ成功ノ算大ナ

電信課註 本電五分ノ二三未着

六二四  
緊急

受信  
〇〇三四〇  
〇五一一五

了〇六三七  
電一一六〇六  
作概

九〇一空七尾派遣隊



海上護衛總口・九〇一空

五二、一〇五各戦隊P・九〇一空舞鶴、小松各派遣隊

機密第二三一九二〇番電 二分ノ一

九〇一空七尾派遣隊戦闘概報第一〇號（六月二十三日）

一零水一機〇五三〇發進船團直衛並ニ前 略掃蕩〇六五五スズ岬ノ

九〇度二、五涅ニ貨物船三隻北上シツツアルヲ發見之ヲ直衛中北

緯三七度二八分東經一三七度二七分ニ敵潛ノ油紋ヲシキモノヲ發

見〇七〇〇燦撃（六番團二）直ニ海防艦ヲ誘導海防艦燦撃雷攻撃後

多量ノ油湧出スルヲ認ム爾後

（電信課註 本電二分ノ二未着）

通一三〇〇三 呂一四ケ一二（ ） 船通 菅原（ 爾 谷 ）

作

六二四 受信〇八四〇七 譯了二一三〇 電一一七三六 作 概  
譯始一一一〇七

共 符

海護總部隊指揮官・海軍總隊口・舞鎮口  
大臣・軍令部總長

九〇一空七尾派遣隊・九〇一空小松派遣隊・五一戰隊△・一一潛戰△

機密第二三二〇二九番電 四分ノ二、四

三第一掃蕩隊（海六三缺）十七日二二三〇北緯三八度三〇分東經一三七度一二分ニテ敵浮上大型潜水艦ヲ艦尾五軒ニ發見砲撃接觸潛没セルヲ以テ探信掃蕩セルモ敵情ヲ得ズ  
三第一掃蕩隊十九日一八〇七北緯三七度二七分東經一三七度二五分ニ於テ敵潛探知一五〇米迄捕捉爆雷攻撃

（以下四分ノ四）

引續キ各艦攻撃使用爆雷合計九三箇重油及コルク破片一而ニ浮流セ

通 一三〇八九六 天二〇ケ十一（B） 富田（小澤晴）

昭和廿五年六月廿五日



0409

リ二十二日午前ニ至ルモ副三〇〇乃至五〇〇メートル長サニシテ  
巨リ油帶ヲ認ム。

〔電信課註 本電四分ノ一、三既配布〕

昭和廿年六月廿四日

昭和十六年六月廿四日

六二四 受信〇四五九 譯了〇七四五 電一一六四一 作 概〇  
譯始〇六四五 電一一六四二

緊急

共 符



二五根戰艦概報着信艦所・第三南遣艦隊各口・第三南遣艦隊各口

機密 第二三二一五〇番電 二分ノ三二

二九警備隊戰艦概報 二十三日

六タルバ出港一四〇〇以前大型T一中型一小型一D二針路東大型T一

D一八海虎一〇大型上陸用舟艇二舟艇五針路北一四〇〇以後小型T

二GH一針路東大型T四特務艦一〇一D四GH八海虎一八大型上陸用舟

艇三三舟艇三一針路北入港T大型二(中一滿載)D一〇H一海虎五大

型上陸用舟艇三碇泊一四〇〇T大型一六中型八小型七特務艦一工作

船一〇二D五GH一〇H七海虎二七大型上陸用舟艇三六舟艇五〇

二モロタイ發進機針路北乃至西大型四五中型四飛行艇一小型二計五二

通二三〇〇八一三〇二五 三二Bラ十八(六二二三五KC)二二通 田中、半澤(森田)

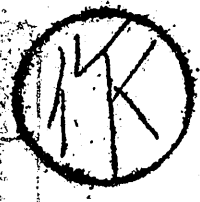
0410

750

六 二四 受借始〇〇八三〇五 歸了〇九一五 電一六八六 艦作 概政〇

昭和廿五年五月十五日

共 符



● 艦政本部・横通・舞銀尸  
● 海上護衛總口・伏木、新潟各港湾各警

機密第二三二二五三番電

着信者 對潛學校長 機雷學校長  
發 一〇五戰隊司令官

六月二十日新潟初テ投下機雷約六〇個中一六個分解調査ノ結果左ノ  
通

一、音響機雷九個磁氣機雷七

二、日限運動三日四〇分及十日一三時間ニ調定ノ音響機雷各一個其ノ他

運動裝置ナシ

三、水圧磁氣機雷ナシ音響機雷ニ運動裝置アルハ今回ガ最初ナリ

通一三〇四八 天二〇三( B ) 舞鶴 長谷川(吉)

45

六二四 緊急  
受信開始 〇三二七  
〇六四五  
了 〇七一六  
電 一一六二  
一一三三  
作概 〇

傍

聯合艦隊 五航空艦隊

高通

二三一二四〇〇

通電先

潮

長セイ丸各軍

傳

ニモ傳ヘラレ度

準

中支派遣軍

サキガケ

登 講 豐

バクシン

聯合艦隊

第五航空

艦隊

臺參情電第六一九號 其ノ一二

機動部隊情報

輸送機ノ目視ニ依レバ本二十三日一九〇〇頃臺北基點至四度二六

通 一二九八〇  
一三〇八一〇

協作

(四四七〇五 ECKO)

高通 在二放

森 (細川)

(1)

0413

○ 軒ニ三(ミ)群(大型艦一〇數隻)ヲ含(ヨリナル八〇隻内外ノ敵機動部隊ヲシキモノアリ針路三〇〇度。

(2)



KaB

六二四

受機可也。

話三三。

電二七八。

作機。

昭和廿九年四月廿五日

緊急

備

備

一護衛部隊。對島防備部隊

備

一護衛部隊 P

機密第三四。七甲六番電

大形航空母艦ヲ含む八隻。丁九三群

一九三〇台北三四月度。運送路三〇。度。

運送路 數字多ク運送ス

運一五六一 話一七九八三(北)話三三

機密部

人

六二四 受信一六一五〇 譯了一八四〇 電一一八二六 航作概〇

緊急

南鳥島警



機密第二四〇八四九番電

〇五〇三ヨリ〇五三六迄PB四ヤ一ニ 一機南方哨戒後二四〇度方向ニ去ル 〇五三六B二四 一機北方ヨリ來襲投彈五發(内二發空中炸裂)二三〇度方向ニ去ル 〇七〇九ヨリ〇七三八迄B二四 一機六〇度方向ヨリ二〇〇度方向ニ去ル 敵艦上機ニ對シ警戒セシモ遂ニ來襲スルニ至ラズ斯クノ如キ時刻及北東方ヨリ二機來リシハ最近迄ノ特異ノ現象ナリ 〇八二五

(東通註 本電誤字極メテ多シ)

通一三一六五 呂一B々十二(一〇二〇〇C) 小森(森田)

昭和廿五年五月廿五日



二四 受信一七〇三五

譯了一八〇五

電一七八〇

航作概本

昭和十年四月十五日

共符

● 松山航空基地

● 海軍總隊口六航軍派遣通信隊・佐通

機密第二四〇九五六番電

發 五A 參謀長

宛 五五七A 參謀長 八六D 參謀長

通報 GB 參謀長 佐世保鎮守府參謀長 一六H A 參謀長 六P A 參謀長

第一〇二二航空隊司令 九州航空隊司令官

志布志飛行場へ全面的工事ヲ中止今後使用セザルニ付現有施設資材ノ利用  
及破壊ニ關シ直接九州航空隊司令官訓示協議セシメラレ度。

通一三一〇 呂一Bケ十二(七八七五KG)一KFGB放 永井(字)

六  
二四 受信二三〇  
二五 開始〇〇一五  
譯了 一〇四七  
電 一二二三八  
一三三三九

昭和廿年六月廿六日  
作概〇・執本

作

東 通・聯合艦隊司令部・一護衛艦隊司令部  
機密第二四一八四二番電 三分ノ三三三三 三分ノ一未着

機密第二四〇一五六番電受信 時刻〇二二九了解時刻〇二二三二

ロツキードA一ニ九ト判断ス 二五耗機銃彈四發ヲ 以テ反撃セリ  
幸ニ命中彈ハ認ノ所ラザルモ遂ニ當地不時着ヲ断念セシムルニ至リシ  
ハ遺憾ニ堪ヘズ  
ニ右ノ外心當ナシ

為間島飛行場ハ三月中旬以降修理シアラズ 使用不能ニシテ不時着  
ノ際ハ附近海面ヲ使用スルノ外ナキニ狀況ナリ（五月十五日電報報

機密入機密方面行動ノ際ハ味方ニ豫メ通知ヲ得度。  
通 二三三六  
一三三八  
呂 一三三六  
父通

0417

29/9

人

六二四

受信  
開始 二二二〇

譯了 二三五〇 電 一 一九三一 作 概 〇

作戰緊急

二九警

作

第二南遣艦隊戰術概報着信艦所・第三南遣艦隊口・第三南遣艦隊各口

機密 第二四一九三〇番電

二十四日本朝〇六三〇「テルナーテ」島北部「スラマダカサ」ゴロ  
バイト・タコメ」ニ敵約三〇〇名上陸同島派遣隊ハ之ヲ邀撃ス。

通一三三五九

呂一Bラ十八 (六二二三、五KC) 二二通 半島 (森田)

昭和九年九月廿五日

757



六二五  
至急

受信開始  
〇〇一五〇七

譯了〇二三五  
電一二二四〇

參作  
本概



高警戰團極報着信鑑所

高警戸

機密第二四二〇一〇番電

澎湖地區臺東ヲ銃爆擊臺中市以南ニ電單散布

四二〇一五ヨリ二二五〇ノ間PB四Y一機沿岸哨戒  
五戰果ナシ

六被竄陸海軍側ナシ民間側虎尾製糖會社全壞セル外輕微ナリ。

（電信課註 本電二分ノ一未着）

通一三四一六、四一B、十一、四七〇五（高通 大内（本 田）

昭和廿年六月廿六日

29kg ナテ島敵上陸

作

六二五 緊急

受信〇三三五 譯始〇五三〇

譯了 一〇〇〇 電 一 二 四 九

二九 警備隊

軍務 文庫 作務

一五根戰團概報着信艦所・三南道艦隊各

機密第二四二二二三一番電

二九警備隊戰團詳報

現對勢 昨夕テルナ一テ見張所ヨリ二十四日朝敵テルナ一テ島上陸ストノ情報ニ接シテルナ一テ派遣隊及見張所ヲシテ嚴戒中ノ處本日〇六三〇敵約三〇〇名テルナ一テ島北部ニ「スラマダハ」ゴロバイト「タコメ」見張所ニ上陸セリ派遣隊（兵力約一〇〇名）ハ之ヲ邀撃激戰中ナルモ一四〇〇敵ハ魚雷艇二隻ノ援護下要衝ヲ占位シ爲ニ陣地ヲ確保シ難キニ至レルヲ以テ一七〇〇部隊ヲ一時本部ニ轉換「スラマダハ」ニテ九名生死不明

尙テルナ一テ見張所ハ暗號書ヲ燒却派遣隊ニ合同シツツアリ。

一三四六七 呂一ヨラ一八（六一二二、五〇）二一通 明比（小澤）

昭和廿年六月廿六日

六二六

受信機 〇〇八四五〇

機丁 一〇二五

電話機 一一二五九三〇

製作 本機

昭和廿年六月廿七日



千鳥防備部隊戦闘概報着信機所

機密第二五〇二一三番電 四分ノ二二三四

北千鳥防備部隊戦闘概報第四號六月二十日

一 敵機状況第一次〇六三〇B二四二機

カ 北東ヨリ

近接セルモ単三機哨戒中ノ爲白石東方二〇軒ニテ反轉遁走(電波探

信機捕捉セズ)第二次〇九五八カガノマ北東二三〇軒ニテ電探捕

獲二〇〇〇高度五〇〇〇米ニテ「ソ」領海侵犯(ウタシウト監視哨

一〇五〇B一二四 六機編隊片岡上陸ニ侵入飛行場附近降發小型

爆弾約三〇〇發投下東方ニ脱去第三次B一二四 二機一〇五三松輪

機機機機機古丹島ヲ經テ北上二〇八機艦海峽北口ニ來襲航行中

大發三隻ヲ統率(爆弾六發)村上崎附近投弾二發更ニ國端崎附近

通一三九九九、一四〇一七

一四〇一八、一三九七二

奥山、高原(長谷川)

銃爆撃（三〇發）後東方ニ遁走

三 戰果集及地上砲火ニ依リ第二、三次トモ撃破各一（通信情報ニ依リ

一機墜ノ算大）

三 被害海軍側戦傷三 一式陸攻一瑞星發動機一小破貨車四 露上車一

潤滑油加熱車二被弾陸攻隊指揮所格納庫車庫各一小破及爆彈一被弾

一陸攻習爆彈及火工兵器若干焼失 陸軍側戦闘機大破炎上一 大破

一中破四小破三高練一小破準一機未歸還戦傷死兵各二（大發乗員）

燃料若干焼上

四 發射彈數七煙野九〇發二十五耗機銃三八五發 天候半晴 風速五

米 頭界二〇軒

人

0423

六二五 受信二〇六五二 譯了二三〇五 電自一二四三九 誅 通

至 急

一海上護衛總隊指揮官・一護衛艦隊P・舞鎮P  
一〇五戰隊P・三一海防隊

大海參一部・和通大警P・佐鎮P・鎮警P

機密第二五〇六二八番電 三分ノ二、三

發 第二二二號海防艦長

本艦若狹灣ヨリ七尾沖行動中敵潛電話傍受(二直)ニ依ル情況

左ノ如シ

二二一〇八〇二十一日二十三時何レモ一八三〇頃ヨリ翌日〇四

〇〇頃迄五乃至八艦所ニテ常時盛ニ交話(感度極メテ大)シツ

ツアルモ二十四日夕ヨリ電波輻射ニ警戒ノ兆アリ

通自一三三三三 舞通 石原(金森) 1

昭和廿年九月廿六日

761



三「チヤジヤール」ハ二十三日朝來ノ本艦ノ攻撃ニ依リ同日夕刻ヨリ僚艦ノ指揮ニコタヘズ「デリゲイト」ノ言ニ依レバ沈没セルモノノ如シ

三、二十四日夜搜索ノ結果三六八五附近ニテ二・三艦所ト連絡シアルヲ捕捉セリ（感二一五）

四所見

(イ) 是等敵潛ハ二隊以上ニシテ山陰沖ヨリ新潟沖附近迄ニ配備シ（小濱ヨリト推定）夜間浮上ヲ續行密接ナル連絡ヲ保テ數種ノ特定哨戒航路ヲ形成跳梁シアリ

(ロ) 交話中隱語多キ爲意味推定困難ナル部分アリ

昭和廿年六月廿九日

至 六 二七六 受傳二九〇〇一 譯丁一六三〇 電一三一八二 作 概  
至 急 揚 根



支那方面艦隊中  
海軍總司令部 上海、青島各根、二道支艦隊中

機密 第二五一一〇二番電

揚子江部隊戰鬥概報 第二六號 (六月二五日)

一、自一三三九至一三四五P一五一 四機大通安慶ニ來襲海陸軍協力一機

ニ相當ノ命中彈ヲ與ヘシモノト認ムルモ海軍側被害ナシ

二、一四二〇P一五一 四機湖ニ來襲基地隊迎撃全機ニ相當ノ命中彈ヲ

與ヘシモノト認ムルモ被害一需一號艇至近彈ニ依リ操舵室破壊乗員二

重傷約八隻ノ被曳船被彈炎上

通一四三五三、四一〇ラ一八(七四六五K)上海 富永(分ソ)

(一)

0425

762

三自一四三八至一五二〇P一五一〇機九江石灰密鄂城ニ自一七三六

至一七四五P一五一四機武穴平州ニ來襲被害九江軍需部重油二六七

〇三立流出

四一九七二P一五一二機武漢地區ニ侵入沈口ヲ銃撃被害大シ

0427

29 kg

作

六 二二五 受信 〇四〇一三 丁〇九四〇一 二七〇七 作

昭和廿年六月廿七日

(通報表示) 二四 通信 除

二九 番 備 除

二五 根 據 地 隊 司 令 官

敵 行 動 情 況 判 断

敵 上 陸 第 一 報 達 タ ン ク 通 延 シ タ ル ハ 「 ス ラ マ ダ ハ 」 ( 砲 撃 ニ 依  
リ ナ テ 島 北 端 ) 派 遣 員 急 襲 ナ 受 ケ 全 滅 シ タ ル モ ノ ト 認 ム  
示 敵 上 陸 時 何 等 延 及 飛 行 機 ノ 掃 蕩 ナ ク 爾 後 予 備 ニ 三 隻 ノ 魚 雷 艇  
ノ 協 力 ア リ レ ノ ミ ニ シ テ 本 日 一 〇 〇 〇 ニ 至 ル 予 備 的 行 動 ナ  
サ マ 右 ニ 備 々 上 陸 セ ル 敵 ハ 自 人 ノ 率 キ ル 土 民 軍 ニ シ テ 何 等 カ ノ  
策 動 ナ 準 備 中 ナ ル モ ノ ト 判 断 ス

通 一 三 八 五 八

呂 一 〇 ヲ 十 八 ( 六 一 三 二 五 〇 ) 十 一 通

小 宮 ( 小 林 )

二二五 二六 譯信 〇八〇 〇五三 譯了 〇九三〇 電一 二五五七

昭和廿年六月廿七日  
航務 水



機密第二五二四一九番電

第三特別根據地隊戰闘概報第三三號

一一〇一―一四五 P B B 一四機「リンプン」飛行場投彈

一六發

戦果 一機撃破(撃墜、首大)戦闘後逸撃ニ係リ被害ナシ

二十四日一九四〇ヨリ二十五日〇三四〇迄 P B Y 五計ニ機

逐次「マカッサル」地区ニ侵入對空威力圈ヲ避ケ「マロリス」七回

「タラカン」四回「リンプン」四回各一機乃至二機宛投彈

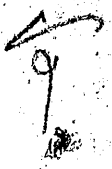
被害ナシ

通一三八八 〇一〇ラナハ六二二五並地(三一)通

小林(増田)



行



局長	課長	主任	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長
係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長	係長

六八二五  
 三六五  
 受信三二〇〇  
 〇八〇〇  
 了〇九〇〇  
 電一二五六八

就作  
 本概〇

昭和廿年六月廿日

● 大海参一部・聯合艦隊司令部・父島航空基地

機密第二五一八四二番電

發 第七五二航空隊司令部

左ニ依リ彩雲四機ヲ進出豫定

一 二十七日一七〇〇木更津發一八〇〇 八丈着

二 二十八日〇四〇〇 八丈發一四〇〇トヲツタ着

三 航路八丈ヨリ錫島ウラカス島經由

四 使用電波七五八二

五 呼出符號木更津基地エセシ八丈ワノケトヲツタ基地レネミ彩雲ノ

リ一四

六 使用暗號番多八四リヤ乙

七 氣象速報ニ關シ配慮ヲ得座

通一三八四三 呂一〇ケ一二(二九八五五)七〇〇B放 谷島(兩谷)

昭和廿年六月廿七日

六二六 受信開始 〇〇七三〇一〇二 譯了一五四九 電一二八七五四 作航本

急

東道・横通

父通



機密第二五一九〇六番電 二分ノ下ニ

父根下

横通の謀長

大海上の部長 G.F. の謀長

機密第二四一一一五番電開聯

一本二十五日一〇〇〇頃弟島附近出漁中ノ海軍漁船武蔵丸陸軍江島

大尉及池澤中尉ヲ救助セリ

三判明ナル情況 概要左ノ通り

(1) 龍崎島攻撃ノ二十四日〇〇三〇敵夜襲ノ攻撃ヲ受ケ片隻動揺ト

ナル爾後父島通信隊機密第二四一八四二番電所報通り父島旋回

通一三九三九 四〇一二

呂一〇三十二(一二六七) 横放

傳崎 吉川 (岩崎) (1)

○二三五弟島東方約五軒ノ海面ニ不時着○五三五弟島ニ着  
○江島大尉前額ノ刻傷全治十三日尙輕傷者池澤中尉ノ外兵長一名

弟島所在陸軍部隊ニ收容其ノ他ノモノ四名當地着

○僚機ハ攻撃後北滿黃島東方ニ於テ自燃セルモノト認ム○五五○

(江島大尉機火柱目撃確認)

(同機ノ攻撃目標ハ元山飛行場ニシテ戦果炎上四個所。

《東通誌 本電開始符不明遅延ス。G.P.通報済》

下

六二五

受信三一〇  
譯始〇八三。

譯了〇〇。

電一三五五六

航作概  
〇。

昭和廿年六月廿七日

作

二十三根戰機概報着信艦所  
一三航空艦隊

機密第三五一九一〇番電

三特根戰機概報第一二二號

三二五目〇八三四ヨリ約三〇分B一三九一機  
カヤル西方海面偵察

二〇五一一二四二B一三四一ニ機ママスニ投彈一一三五一一

二〇五一一三八三機マ四又「ライカン」基地旋回偵察

結果B一三四一撃墜ニ擊破(味方機回偵察)  
波濤第一滑走路一發被彈使用不可能。

通

三二五目〇八三四ヨリ約三〇分B一三九一機

カヤル(機)

秀

作

大三七  
受信〇九三三  
誤始一二二〇

誤了二四二  
電一三〇七八

航作概  
和

昭和廿年六月廿八日

着

千島防備部隊異開概報着信概所

先

五二警備隊

763

機密才二五一九二五番電 二分一

才二警備部隊異開概報才三七三號(武藏地込六月廿五日)  
一才一次一五〇敵B一三番一機低空二二七〇度方向  
ヨリ侵入飛行場附近二小型爆弾數発投下一六  
〇度方向二避退セリ才二次一五三五敵B一三四一  
機クヲ部崎方向ヨリ侵入武藏棧橋沖二小型  
爆弾數発投下。

「電信課註 本電二分二既配布」  
通一四五九九 天二B才十二(一二六K)横通放 才木(海燈)



昭和廿年六月廿六日

六二六 受信開始 〇〇四一五九 譯了 〇五〇〇 電一二四六六 航作概本〇

● 鹿屋航空基地

● 一〇一航戰

● 東通・五航空艦隊 九州航空基地

機密第二五二〇三二番電 二分ノ二

發 一〇二二空司令

通報 鹿屋基地 参謀長

機密第二〇一〇一〇一番電 關聯

志布志基地ハ全面的ニ工事中止今後使用セラレズ現有施設並ニ資材利用  
及破壊ヲ考慮セララルル五A Fノ意向アルニ付キ志布志派遣隊(假稱)ハ

通 一三九四〇 呂一Bケ十二 (四七四二五K) 五A F P 千葉・岡野(三石  
通 一三九四一

0434

769

之ヲ撤退セシメ鹿屋基地ニ零式輸送機ニ機ヲ搬置スルト共ニ整備員  
 約五〇名ヲ九州空ニ侵入除キシムルコトニ決ムル豫定尙人吉基地  
 ハ作戦ノ都合ニ依リ輸送機隊ノ出水基地ハ派遣可能ナルモ大型機  
 秘匿困難ナリ

(8)

作

局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長	局長
課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長	課長
A	B	C	D	E	F	G	H
I	J	K	L	M	N	O	P
Q	R	S	T	U	V	W	X
Y	Z	AA	AB	AC	AD	AE	AF

千島防備部隊機關報着信船折、八月機報着信船折

機報着信船折、八月機報着信船折

古字通信隊

電言夏 作概〇航本

昭和廿年六月廿八日

蒸餾機 六月二十五日  
 一、フツフボック型三機、三四〇フツク止一三一〇占守海峡ヲ経テオホク  
 海ヲ北西進後一五〇〇・一五三〇各一機宛武蔵ニ侵入旋回投弾、後東  
 方ニ進走此、間オホク海上下二時同進テ飛翔行動特異ナリ  
 二、我果被撃ナシ  
 三、武蔵方面交戦状況、オホク警備部隊折報通。

通一四四六二 八月十三日(三六九) 換放  
 小林(海軍)

作

六  
二七六  
受信 〇一九〇〇五  
譯了 〇一四〇  
電 一三三  
一四四  
五  
作訓

昭和廿年六月廿八日

東通。横通。大濤通。横防戦指揮官

機密 第二六一三〇〇番電 二分ノ六二

三陸部隊指揮官

横領 犬警務 海上護衛司令部 大本營海軍部 參一部長

起報 横濱 遠東各在勤武官 横須賀運輸部長 宗谷船長

三陸部隊戰訓速報

一六二四船團ノ被害並ニ從來敵潜水艦出現狀況ニ鑑ミ三陸海面航行

船舶ハ山田ニ寄港(假泊)セザル如ク計畫スルヲ要シ要スレバ文川

ヲ經由スル如ク

重要機材物資ノ輸送ニハ爲シ得レバ大型船ヲ避ケ小型船ニ分載スル

ヲ可トス

山田港外ノ對潜機雷礁ノ構成ハ緊要ノ問題ナリ(機雷敷二〇〇箇)

渡部 寒河江 (市原)

一四二七三

天二四々十二

六二七 受信開始 〇〇四二〇七 譯了 〇七三一 電自 一三三〇〇  
至 急 〇〇四二〇七 譯了 〇七三一 電自 一三三〇〇  
〇〇四二〇七 譯了 〇七三一 電自 一三三〇〇

昭和廿年六月廿八日

● 吳防戰隊・松山空・宇和島空  
● 德山通信隊・代表機關・二一聯空  
● 東通・佐伯空・佐伯防備隊

機密第二六一三四九番電 四分ノ六ニテ

宛 吳施設部 吳工廠 第一航空廠 吳軍需部 大竹海兵團  
安浦海兵團 防府海軍通信學校 (德山)

通報 軍司令部 施設本部 航空本部 軍需局

吳鎮電令第一九號

一、左ニ依リ吳ハ適宜ノ設營兵力ヲ以テ七月十五日迄ニ秘密飛行場ヲ概  
成スベシ基地名所在地協力兵力(以上)同派出廳ノ順六二一廣島縣  
高田郡根野村五〇〇・六二二廣島縣佐伯郡栗島二〇〇大竹海兵團  
通 一四四〇八 四四二六 口一Bヶ十二(四〇四五K)吳通 渡邊(五島)  
一四四二五 四四二九



(内七) 〇防府海軍通信學校(六三一) 山口縣夕方郡藤河五〇〇防府海  
 軍通信學校六三二 山口縣吉敷郡白瀬筋村一〇〇〇防府海軍通信學校六  
 三三 山口縣美彌郡赤郷一六六二 愛媛縣温泉郡拜志村五〇〇松山空六  
 六三 愛媛縣喜多郡菅田村五〇〇宇和島空六六一 愛媛縣周桑郡田野村五  
 〇〇安浦海兵團六九一大分縣西國東郡地村自力六九二 大分縣大分郡  
 戸村一六九三大分縣夕方郡日出生一六九四大分縣大野川上流(未  
 定) 五〇〇大和六九五 由布院附近(未定) 五〇〇吳防備戰隊  
 二 兵力派遣左ニ依リ當該基地完成期ニ對シ責任ヲ分擔工事進捗ノ狀況  
 ニ依リ協力兵力ハ適宜増員スルモノトシ施設要具(貨物自動車等)  
 圓形等)ハ成ルベク多數派遣元ニテ準備スルモノトス  
 吳工廠長ハ右基地ニ對シ速ニ所要ノ兵裝ヲ實施スベシ  
 四 第十一航空廠長及吳軍需部長ハ施設部長ノ具陳所要ノ兵器ヲ供給  
 與スベシ  
 五 本工事ハ特ニ機密保持ニ注意徹底セル偽裝迷彩下ニ之ヲ實施スベシ  
 六 本工事ハ現戰備工事中國先實施スルゴトトシ之ヨリ兵力ノ一部ヲ充  
 當水上(中)特攻基地及B陣地ノ建設遲延スルモ差支ナシ。(二)